

# お告げのマリア修道会 まごころ会

発行：お告げの  
マリア修道会  
2021年8月  
Tel.095-846-8300

十 私は主のはしたためです。  
お言葉通りこの身になりますように。

## 駐日教皇大使ボツカルディ大司教様 本部を訪問されました。

駐日教皇大使に任命されたボツカルディ大司教様は7月16日に着任されました。広島・長崎の平和記念式典に参加され、9日18時半よりの浦上教会での平和祈願ミサを司式されました。その前日、8日にお告げのマリア修道会の本部を訪問してくださいました。

## 駐日教皇大使ボツカルディ大司教様



本部エントランスにて

- まごころ会会員帰天、お祈りください
- ・マリア 松田京子 87歳 宝亀教会
- ・マリア 中田キクエ 103歳 鯛の浦教会
- ・マリア 平尾ハヤ 100歳 浜串教会

## 支部修道院紹介

### \* 十字修道院

今回は、私たち、お告げのマリア修道会の活動の原点ともいえる十字修道院を紹介いたします。

一八七四(明治七)年七月に伊王島で発生した赤痢が浦上に飛び火しました。そこに台風が重なり、村中に赤痢が蔓延しました。早速、パリミッシェン会のド・ロ神父が病人の救援活動に乗り出しました。旅(流配)から帰った岩永マキ森山マツ、片岡ワイ、深堀ワサがその活動を手助けしました。四人は家族に感染することを防ぐために合宿生活を送りました。赤痢が終息したのもつかの間、蔭の尾島で天然痘が発生したため、救援活動を続けました。

天然痘が終息したとき、両親を失ったタケが残されました。岩永マキらはタケを自分たちの子どもとして養育することに決めました。この活動は「小部屋」と呼ばれ、様々な歴史を経て、現在も児童養護施設「浦上養育院」として、その役割を続けています。

その際、ド・ロ神父は、彼女らに祈り、黙想を指導し、活動の指針を整備しました。一九七七年、ポワリエ神父が準修道会として「十字会」を設立し、彼女らの生活は「女部屋」と呼ばれました。

また、十字会から黒島・鯛の浦・仲知・福岡の今村などへ会員を派遣したり、出津・上五島・平戸の会員が十字会で養成され、各地へ戻って活躍し、修道生活の基礎を築きました。

一九四五年八月九日、原子爆弾が投下され、收容児三名、会員二二名が死亡し、施設・修道院ともに全焼・全壊しました。翌年二月には、仮修道院が再建されました。

一九五五年、うみのほし幼稚園、一九六七年、うみのほし保育園を開設し、地域の人々の必要に応えました。

次号、本原修道院に続きます。



岩永マキ像と  
浦上養育院